

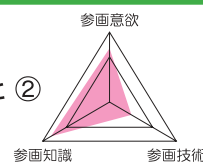
テーマ/ジュニアリーダーの育成をめざしたプログラム【連続講座】

1 「私たちにも何かできるかな！ やってみたいな…」 (7回連続講座)

参加対象：ジュニアリーダーズクラブ会員や中学生・高校生
 募集人員：30人程度
 会 場：公民館、地域の社会教育施設、地域の文化施設、学校 等

養われる
地域
参画力

- みんなで協力して地域をより良くしようとする事 ①
- 近所の住民とつきあったり、地域の子どもたちに声をかけたりすること ②
- 人前で上手に話したり、話し合いをうまくまとめたりなどすること ⑧



講座全体のねらいと流れ

中学生や高校生がジュニアリーダーとして、①活動そのものの楽しさ ②自分たちで企画し、仲間とともに活動する楽しさ ③子どもや地域の人たちと関わる様々な体験をとおり、自分を見つめ、高める機会を提供する。ジュニアリーダーズの役割を理解し、地域活動へ積極的に参加していく意欲と実践力を身につける。



回	テ ー マ	学 習 内 容 ・ 方 法
1	仲間っていいね!	開講式・講話 「ジュニアリーダーってなに」 「ボランティアとは？」 ○ワークショップ…「仲間っていいね！」仲間づくりゲーム等
2	ジュニアリーダーとは?	○ジュニアリーダーの活動について 講話 「〇〇〇〇の取り組み」 視覚的な資料をもとに具体的活動について理解する。 ○ワークショップ…ジュニアリーダーについて考える。 「どんなことがしたい・できるかな？」
3	人を楽しませる レクリエーション!	○演習「レクリエーションゲームのあれこれ」 いろいろな楽しいゲームの体験、習得。
4	実際に体験してみよう!	○団体や公民館の子ども事業を見学し、大人や子どもとの関わり方について学ぶ。
5	体験場所への移動 は、安全を考慮し、 安全な送迎方法を工夫する。	○ボランティア体験 福祉施設・保育園等の訪問により、福祉体験をする。
6		○子ども会・市の事業などに関わり、協力する。
7	自分たちで企画して やってみよう!	○ワークショップ…「企画書をつくろう」 自分たちで企画し、実践したいことを話し合う。 企画書づくり(グループ)、実践内容の絞り込みと細部計画

テーマ/ジュニアリーダーの育成をめざしたプログラム【連続講座】

【第1回】「仲間っていいね！」



養われる
地域
参画力

●みんなが協力して地域をより良くしようとする事①

第1回講座のねらいと流れ

中学生・高校生がジュニアリーダーとして、関わる意義について理解するとともに参加者同士の交流、相互理解を促す。

アクティビティ① 開講式 趣旨説明・アイスブレイク(自己紹介)講座担当者 【20分】

アクティビティ② 講話「ジュニアリーダーってなに！」講座担当者(社会教育主事)【30分】

アクティビティ③ 講話「ボランティアとは？」市ボランティアセンター職員 【30分】

アクティビティ④ 「仲間っていいね！」講座担当者(社会教育主事) 【40分】

「ジュニアリーダーってなに！」 【30分】

ねらい

ジュニアリーダーの役割について、理解し、中学生・高校生のボランティアとして関わろうとする態度を養う。

アドバイス

中学生・高校生のやる気を促すよう、ジュニアリーダーの役割についてできるだけ分かりやすい説明や資料を工夫するとよいでしょう。

「ボランティアとは？」 【30分】

ねらい

ボランティアの意味について理解し、自分たちのできることで社会貢献しようとする態度を養う。

アドバイス

市ボランティアセンター関係職員の方から、ボランティア活動の現状やボランティアの意味や関わり方の講話とともに関係機関の紹介をしていただくのもよいでしょう。

「仲間っていいね！」 【40分】

ねらい

仲間づくりゲームをとおして、参加者の交流と相互理解を図る。

アドバイス

楽しくゲームを通して、参加者同士の交流により、お互いを理解し、これからも一緒に活動していこうという意欲を喚起できるよう、ゲームの内容を工夫するとよい。時間があれば、グループになった時に、少しおしゃべりができるような場面をとるのもよいでしょう。

【心で握手】
【拍手でグループ】
【仲間さがしゲーム】
【名前 DE ビンゴ】
【サイン集めじゃんけん】など

※ゲーム内容は、資料①やⅡの(3)のアクティビティ集より効果的なゲームをするとよい。



心で握手

〈遊び方〉

- ① まず、1～3の中で好きな数字をひとつ決めます。声に出してはいけません。
- ② いまから、私が「はじめ!」と言ったら、近くの人と二人組みを作ってください。
- ③ 二人組みができたら、「せーの!」と言って、あなたが心に思っている数字の数だけ、相手の手を強く握ってください。
- ④ 手を握る回数が同じになったら、パートナー成立です。二人でその場に座ってください。
- ⑤ もし、手を握る回数が違ったら、別の人と二人組みになって握手を続けてください。

サイン集めじゃんけん

〈遊び方〉

- ① 全員がメモ用紙とえんぴつをもって周りに広がります。
- ② リーダーの合図で、近くにいる人とじゃんけんをする。じゃんけんに勝った人は、負けた人にメモ用紙に名前を書いてもらいます。
- ③ 次に、他の人とじゃんけんをして、勝ったらサインをしてもらい、負けたらサインをしていく。制限時間内に一番多くサインを集めた人が勝ちとなります。

仲間さがしゲーム

〈準備するもの〉

いろいろな動物の名前をかいたカード (何枚かずつ同じ種類のものを用意する。)

〈遊び方〉

- ① 動物の名前をかいたカードを全員に配ります。すぐにカードをみないようにします。
- ② リーダーが「よーい、はじめ」と言ったら、カードをみて、その動物の鳴き声やジェスチャーで同じ仲間をさがします。このとき、動物の名前を言ってはいけません。
- ③ 同じ仲間をみんな見つけたら、その場に座って待ちます。
- ④ 最後に、リーダーは動物の名前を呼んで、名前を呼ばれたグループは鳴き声やジェスチャーで返事します。

名前deビンゴ

〈準備するもの〉

5×5のマス目のビンゴカード(人数が少ないときは、4×4)、参加者の名前が書かれた紙、箱

〈遊び方〉

- ① コール者は、あらかじめ、参加者全員の名前が書かれた紙を準備しておき、中身の見えない箱に入れておきます。
- ② コール者の合図から5分間で、お互いに自己紹介をして、相手に自分のカードのマス目に名前を書いてもらいます。
- ③ コール者は、全員がビンゴカードに名前を記入されているか確認をし、その後、座させます。
- ④ コール者は、箱の中からカードを取り出し、名前を読み上げる。名前があったら、自分のカードに印をつけ、タテ・ヨコ・ナナメのどれか一列そろったら、あがりとなります。

テーマ/ジュニアリーダーの育成をめざしたプログラム【連続講座】

【第2回】「ジュニアリーダーとは？」



120分

養われる
地域
参画力

- みんなが協力して地域をより良くしようとする事 ①
- 人前で上手に話したり、話し合いをうまくまとめたりなどする事 ⑧

第2回講座のねらいと流れ

ジュニアリーダーとしての必要性や役割を理解し、ボランティアとして自分たちが協力して、地域に関わろうとする意欲を喚起する。

アクティビティ① 講話 「ジュニアリーダースクラブの活動」 クラブ担当者 【50分】
実際の活動の紹介を交えた内容の講話(視覚的なプレゼンを盛り込んで)

アクティビティ② 「こんなことをやってみたい」 講座担当者(社会教育主事) 【70分】

こんなことをやってみたい

【70分】

準備物

模造紙・マジック・
付箋紙

ねらい

ジュニアリーダーとして、自分がどのように関わるかについて、グループの話し合いにより、つかめるようにする。

- ① 仲間づくりゲームにより、グループ分けをする。
- ② 講話を聞いて思ったことや感じたことについて自由に話し合う。
- ③ ジュニアリーダーとして、自分は、どのようなことに取り組んでいきたいかについて、グループ内で自由に話しあう。
- ④ グループで話し合った内容を分類し、模造紙にまとめることでお互いの思いを共有する。
- ⑤ 分類した内容のいくつかをモデルとして、実現に向けて、どのようにすればよいか(方法、連携のあり方等)について考える。
- ⑥ 各グループの話し合いの内容を発表し合い、参加者の思いを共有し、同じ考え、違った考えなどを知ることにより、自分がどのようにこれから行動していくかについてのふりかえり。

アドバイス

グループは、6人程度とし、年齢・性別構成もバランスよくなるよう、グループ分けを工夫するとよいです。グループ内でリーダーを決めて、話し合いを進めます。また、このグループは、今後の活動の班とするとよいです。うまく話し合いができないときには、適宜アドバイスをします。

アドバイス

話し合う内容は、一つの事柄についてでもいいです。具体的にどのように活動するかは、参加者の自由な発想を生かし、みんなで協力して企画する楽しさを味わわせることでこれからの主体的な行動へとつなげます。

テーマ/ジュニアリーダーの育成を目指したプログラム【連続講座】

【第3回】「人を楽しませるレクリエーション！」

120分

養われる
地域
参画力

●近所の住民とつきあったり、地域の子どもたちに声をかけたりすること②

第3回講座のねらいと流れ

地域の人や子どもたちと関わるためのコミュニケーションの取り方や人を楽しませるゲームについて学び、実践に生かそうとする態度を養う。

アクティビティ① 講話「人と関わるためのコミュニケーション」 講座担当者 【30分】

アクティビティ② 「みんなを楽しませるレクリエーション！」 講座担当者 【90分】

講話「人と関わるためのコミュニケーション」

【30分】

ねらい

地域の人や子どもたちと関わるためのコミュニケーションのポイントについて、理解し、これからの活動に生かすことができる。

アドバイス

人と関わるときに大切なポイントを説明し、実際にお互いにやってみて体感できる場面を設けるとよいでしょう。

「みんなを楽しませるレクリエーション！」

【90分】

ねらい

ジュニアリーダーとして、みんなを楽しませるレクリエーションゲームの内容・方法を学び、実践に活用できようにする。

アドバイス

ゲームの概要について簡単な資料を用意しておくといよいでしょう。

ゲームについては、簡単で準備もあまりなくてもできるような内容を選定することが大切です。

講師は、レクリエーション協会の方にお問い合わせのよいでしょう。

- ・二人組でできるゲーム
- ・人数を増やしていくゲーム
- ・チーム対抗で行えるゲーム

など子どもたちが楽しめるようなゲームを紹介し、体験するだけでなく、自分がリーダーとなって、ゲームを進行できるように、実際に進行役となって、ゲームを行う。

テーマ/ジュニアリーダーの育成を目指したプログラム【連続講座】

【第7回】「自分たちで企画してやってみよう！」

120分

養われる
地域
参画力

- みんなで協力して地域をよりよくしようとする事①
- 人前で上手に話したり、話し合いをうまくまとめたりなどすること⑧

第7回講座のねらいと流れ

今までの学習や体験から、ジュニアリーダーとして、自分たちから進んで企画し、地域活動に積極的に取り組もうとする態度を養う。

アクティビティ① 「こんなことをやってみたいな」 講座担当者 【60分】

アクティビティ② 「みんなで協力してやってみよう！」 講座担当者 【60分】

「こんなことをやってみたいな」

【60分】

ねらい

グループごとに、これまでの学習・体験から、ジュニアリーダーとして、地域活動に関わってみたいことを話し合い、実践の方法を検討する。

- ① これまでの学習を振り返り、グループで感想を発表し合う。
 - ② 自分がやってみたいことを話し合い、グループで企画書を作成する。(内容・連携先・気をつけること等)
 - ③ 企画書をもとに、グループのプレゼンの準備をする。
- ※企画書の形式は、資料②の企画書①を参照。

アドバイス

細部にわたっての企画は難しいので、概要がわかる程度の企画でもよいでしょう。

「みんなで協力してやってみよう！」

【60分】

ねらい

グループの提案をもとに、全員で検討し、取り組む内容を決め、みんなで協力して、実践に向けた計画を立てることができる。

- ① 各グループが企画書をもとに、実践したいことを発表する。
 - ② 発表をもとに、全体で検討し、実践する内容を決める。
 - ③ 選定した内容について、企画書をもとにし、みんなで話し合い実践の方法を考える。…(資料③の実施計画書を参照) 役割分担など、具体的な行動に移る、具体的な計画を立てる。
- ※残りの企画については、今後、活動に継続性がみられるようになった場合に活用することとする。

アドバイス

連携の方法など参加者の考えをできるだけ尊重するが、実現に向けたアドバイスは、主催者側で行うとよいでしょう。

アドバイス

実践に向けて、計画の時間がさらに必要なときは、第8回目講座を実施するなど弾力的な運用の必要があります。

資料② ジュニアリーダー 事業企画書① (班)

企 画 メ ン バ ー	
活 動 名	
活 動 の 目 的	
具 体 的 な 活 動 内 容	
準 備 す る も の	
活 動 場 所 時 間	
連 携 先 (どの相手と一緒に活動するのか)	
費 用 に つ い て	
気 を つ け る こ と	
ア ク シ デ ン ト へ の 対 応	
そ の 他	

資料③ ジュニアリーダー 事業 実施計画書 (全体)

活 動 名	
活 動 の 目 的	
具 体 的 な 活 動 内 容	
役 割 分 担 と 担 当 者 (責任者 ○)	
準 備 す る も の	
活 動 場 所 時 間	
連 携 先 (どの相手と一緒に活動するのか)	
費 用	
気をつけること	
アクシデント への対応	
そ の 他	

活動の手順について (実施計画書②)

活動の流れ			
時 間	作業内容・活動内容	準備物	担当スタッフ